



メルビン氏無事帰国

去る8月28日からスリランカを訪問していたメルビン氏は10月11日に帰国しました。

今回は、コンピューター室兼図書室の建築と新し



い里子たちの訪問と様々な調査、寄贈されたピアノや衣料を届けるための訪問でした。

車の入れない地域の里子をも訪問したので苦労が多かったそうです。

絵本をいただきました

過日、中田陽一ご夫妻からたくさんの絵本をご寄付いただきました。

中田陽一ご夫妻は自宅を開放して、子どもたちのために「いのしし文庫」を開設されています。蔵書も多く、珍しい世界の絵本がそろっています。

ご寄贈いただいた絵本は、来年落成するお寺のコン

ピューター室兼図書室に置くことになっています。お寺では4月から「日本語教室」を開設しておりますので、学生たちの勉強に大いに役立ちます。

2月に奨学金授与式を開催

来年の奨学金授与式は2月7日に行おうと計画しています。訪問日程は2月6日から2月14日までを計画しています。里子の子の家の訪問や世界遺産の見学も組み込もうと考えています。費用は原油高、物価高に加えホテル代も倍近くに値上げになっており、最低でも20万円くらいはかかると思います。

参加を希望される方は事務局までご連絡ください。参加者のご希望に添えるような日程を立てたいと思います。



コンピューター室兼図書室の建設

スリランカ政府から図書室の新築のための援助がもらえるというので、ガンパハのお坊さんを始め村人たちは必ずもらえるものと期待していたそうですが、その期待は大きくはずれて、たった6500ルピー(約6500円)の援助しかもらえなかったそうです。

その頃、私たちコスモス基金では、幼稚園か図書室の建設、または図書室の寄贈を考えていたところでした。幼稚園の建設は、まだ先行きに不透明な部分があり、

費用も多くかかりますので迷っていたところでした。私たちが訪問している学校には図書もほとんどなく、コンピューターのある学校もほとんどありません。学校に寄贈するよりお寺に寄贈した方が多くの子どもたちが利用できるを考え、お寺にコンピューター室兼図書室を作るための支援をすることにしました。

建設に当たっては、設計者や村人たちのボランティア活動によって建設が進められています。当初は平屋の計画でしたが、先のことを考慮して将来2階建てにできるようにしました。

来年の奨学金授与式の時に落成する予定です。

コンピューターも新たに3台購入し合

計5台で、教えることになっています。月8回の指導で100ルピー(約100円)なので希望者が殺到しているそうです。お寺が田舎の子どもたちの文化発信の地になればと考えています。コスモスの子どもたちは無料です。



トイレと水のお話

私が里子の家を訪問した時、通訳からホテルで用を足しておくように言われました。小さい里子の家にはトイレがありませんでした。学校でも地方の学校には粗末で汚れたトイレしかありません。中には教師用のトイレしかない学校もあります。

水道のある学校もありますが、そのまま飲める状態ではありません。地方の学校には水道もなく、汚れた水を使うしかありません。スリランカで最初の都があったアヌラダプラでは水を得るために3Kmも歩いて取りに行っている地域もあるそうです。それも汚れた水です。

トイレも水もそういう状況なので、衛生状況も悪く、いろいろな病気の原因になっています。

政府はトイレや水についての対策を考えていますが、なかなか進まないようです。

今回、メルビンさんがある篤志家の依頼でアヌラダプラに赴き、水やトイレのことについて調査してきました。トイレは35000ルピー（約35000円）で1室でき、浄水器は1台3500ルピー（約3500円）



浄水器（高さ約80cm）

で購入できるそうです。浄水器は、小さい学校なら1台あればきれいな飲料水を確保できると思います。

大やけどをした友だちを・・・

ビブラブブディ学校（片貝小学校と交流している学校）のスリヤンさんが家で沸かした熱湯に落ちて右手と胸から首にかけて大やけどをしてしまいました。彼女は、コスモス小高ランチの里子ミヒリさんの友人です。

彼女はやけどで醜くなった自分がみんなから嫌われると思い、学校に行かなくなってしまいました。

ミヒリさんたちクラスメイトや先生方は登校しなくなった彼女を心配して家庭訪問をし、彼女がどんな姿

でも今までどおり友達であることを話しました。

その後、彼女は登校できたばかりでなく1番の成績をあげるほどがんばりました。

級友や先生方は何とかして彼女の火傷の痕を治せないかと考え左腕の手術の費用を募金しました。手の手術は成功しましたが、首から顎への傷が残っています。いろいろ調べた結果、インドで手術をすればよくなることがわかりました。しかし費用が15万ルピー（約15万円）かかります。彼女の家も貧しい家庭です。コスモス奨学金の候補にもなっています。校内で先生方や子どもたちで募金をしています。貧しい家庭の子どもたちであり、安月給の先生方なのでとても足りません。15万ルピーは校長先生の半年分の月給と同じ額です。

たまたま用事で学校を訪れたメルビンさんに級友たちみんなが泣きながら協力をお願いしたそうです。

級友たちの温か過ぎる行為に心打たれる話でした。彼女のために少しでもご協力いただければありがたいです。メルビンも私たちも協力したいと思っています。（10月30日からの千葉大学祭で1,0443円集まりました）

現在の会員数

会員数は現在28名です。基金の部は、コスモス基金、小川ご夫妻基金、中田ヨご夫妻基金の3基金。プ



ランチの部は、中田ク氏、成川氏、三宅氏、中田レ氏、中田タご夫妻、板倉氏、富谷氏、小高氏、戸賀氏、成谷氏、橋氏、水上ご夫妻、小林氏、田中氏、三村氏、久藤ケ氏、久藤ヒ氏、平沢氏、岡本氏、メルビン氏の22のランチで構成されています。支援里子の数は43名になっています。

みなさまに感謝申し上げます

コスモス奨学金は、2006年に設立され10人の里子でスタートしました。その後、心やさしい里親さんたちによって多くのスリランカの優秀な子どもたちに支援をすることができるようになりました。貧しい家庭の子どもたちや両親のいない子ども、病気の両親の子どもたち、そしてガンパ地域以上に苦しい生活をしているアヌラダプラなどの地域にまで手を差し伸べることができました。事務局として皆様に心から感謝申し上げます。

また、新たな学校間交流校が増えたこともうれしいことです。交流を通して学用品やピアノ、AV機器などのプレゼントもできました。絵本や遊具、衣料のプレゼントもありました。先生方、子どもたち、保護者たちはこのことに感謝しております。

今回、コスモス基金からの資金提供でパソコン室兼図書室が建設されています。パソコンに触れる機会のない子どもたちがパソコンの勉強をすることができるようになりました。

今年8月のスリランカ訪問では、飲料水や衛生環境について調査しました。これらの支援については、地域のユネスコ協会やけやき倶楽部の皆様からのご協力でご実現できそうです。

コスモス奨学金の皆様にご加護がありますようお願いいたします。

事務局 メルビン、サジーワニー